

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成 20 年 8 月 11 日
調査実施の時間	開始 8 時 30 分 ~ 終了 14 時 00 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 芦穂の里 (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名	水流 涼子
	氏名	浜田 千里
事業所側対応者	職名	管理者
	氏名	田中 茂
		ヒアリングを行った職員数 2 名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4690700010号		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム 芦穂の里		
所在地	鹿児島県奄美市名瀬大字大熊1309-3 (電話) 0993-57-7705		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年8月11日	評価確定日	平成20年9月30日

【情報提供票より】 (20年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年6月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.8

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	3,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250円	昼食 300円
	夕食	350円	おやつ 100円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要 (7月15日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	3	要介護2	2
要介護3	3	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84.6歳	最低 70歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平瀬医院	畠山歯科医院
---------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム芦穂の里は、住宅街から少し坂を上ったところにあり、通りに出ると商店や会社などが立ち並び、生活に便利な環境である。ホームの経営母体である社会福祉法人の代表者は、管理者や職員のケア体制に信頼を置いている。開設3年目に入っているが、これまで職員の交代は無く、職員の幅広い年齢層で支援体制が重厚的である。職員の思いやりの心はケアに活かされ、入居者の生活は穏やかでゆったりとしている。地域の中で信頼と期待が寄せられているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策では、地域住民へ協力依頼をしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価は職員全員で取り組んでいる。自己評価に表れた改善点については、ケアの質の向上・環境改善などに向けて積極的に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は毎回多くの委員が参加して、入居者の状況報告のほか活発な意見交換が行われている。ホームでは内容を記録して家族・職員にも報告している。会議で出された意見は、入居者の健康管理や地域交流のあり方などに活かされ、サービスの質の向上の取り組みが進められている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 第三者委員を置くなどして家族等がいつも意見を言いやすい雰囲気作りを心がけている。来訪時などに出された意見や要望は、職員みんなを受けとめてホームの運営に反映させるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入して地域の行事に参加している。今年度は幼稚園児との交流を計画している。ボランティアの受け入れもしており入居者に喜ばれている。また、地域住民から介護の相談を受けることもあり地域との連携が取れていて、地域の中で頼られているホームである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の思いとホーム職員の思いを入れて、作成した理念があるが、今、改めて職員各自が地域の中で暮らしながら「自分がされたい思い」を出し合って、その思いをわかり易い言葉でまとめようと検討中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議の折などに理念について話し合っている。利用者の暮らしを尊重しながら、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、夏祭りや敬老会などの地域の行事に参加している。今年から保育園児との交流が計画されている。ボランティアも受け入れて踊りや歌など入居者に喜ばれている。地域の方が介護の相談に来ることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は全員で自己評価に取り組んでいる。職員は意欲的に改善に向けて行動している。評価の結果を活かして、敷地の周囲を職員や家族で整地して花壇を作ったりしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム側からは行事等の報告があり、全員で意見交換がなされている。また要望・助言についてもホームから呼びかけており、出された意見や課題への取り組みが深まってきている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは日ごろから入居者に関する相談や、地域住民からの相談ごとなどで連携をとっている。運営推進会議でも助言を貰って、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の状況やホームの行事を毎月報告している。また、2ヵ月毎の運営推進会議の報告のほか個々に必要な連絡は、電話やお便りであることもある。預かり金の報告も定期的に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を設置し家族が言いやすい環境作りをしている。これまで特に問題は起きていないが、家族から「苦情」という表現より「相談」の方が受け止めやすいとの意見があり、呼びかけに配慮しながら、出された意見を運営に活かすよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後の異動はないが、異動の際は入居者に十分配慮していく考えである。今年度中にホーム便りを作る予定があり、その中で家族へも報告して、理解を得ながら支援を続けていくよう検討している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や他グループホームとの相互研修など、職員の受講が偏らないように配慮しながら機会の確保に努めている。今後は資格取得しやすい余裕ある職員体制を予定している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内4事業所で合同研修会や職員との交流を進めている。今後は、お互いの職場で身体拘束や救護法の実技などの現場研修を行う予定もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅を訪問して本人や家族から情報を収集したりホームに見学に来てもらって馴染みの関係作りをしている。本人の生活歴の把握のために、職員との関係や雰囲気作りをゆっくり進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は唄や料理・島の習慣などを教えてもらったり、小さなことでも共に喜び合うことで関係が深まっている。職員が外出の仕度をする入居者から声かけされることもあり、お互いに支えあって暮らしていることを実感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの暮らしの中での表情やちょっとした言葉などで思いを汲み取るように努めている。また思いを引き出すような声かけにも工夫して、本人本位の生活を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員みんなで意見を出し合って作成している。主治医からは受診のつど意見を貰って計画に反映させている。家族には一緒に参加してもらったり、遠方の家族には電話で意見を貰っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時のほか定期的には3ヵ月毎の見直しをしている。緊急時はもとより、退院後は暫く様子を見て、状態の変化に応じて家族や本人と話し合いながら新たな計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の通院・美容院への送迎など柔軟に対応している。入居者と家族と一緒に外出できる支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医はなるべく変えない方針で、定期的・長期的に連携を図るようにしている。ホームの協力医療機関とも適切な支援が受けられる関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は未だ決めていない。家族は全員ホームでの看取りを希望しているが、希望に添えるようこれから準備・検討していく予定である。	○	現在できることや取り組みに向けて職員・医療機関・家族等が話し合っ て方針を作り、全員で共有することが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼びかけや話し方など個々にあわせて工夫している。個人情報の取り扱いに留意しながら職員は常に情報を共有してプライバシーを傷つけない支援を心がけている。		
	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決めているが、起床や食事の時間・入浴の時間・外出の希望など、なるべく本人のペースに合わせた暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、できること・したいことを一緒にしている。食事の準備や後片付け・食事介助など、入居者同士で助け合う姿が見受けられる。みんなで楽しい食事が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日課としては週2～3回昼間の入浴を予定しているが、季節によってまた本人の気分によって夕方でも毎日でも可能な対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食べることが楽しみの一つで、食事の下ごしらえ・配膳・片付けなど楽しみごとが毎日の役割りになっている。そのほか新聞やチラシを見て楽しむ利用者もあり、職員は個々の健康状態に配慮しながら気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	健康状態に配慮しながら散歩やドライブなどの外出を支援している。家族の協力を得て入浴施設に行ったり、お盆や正月の外泊など希望にそった支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけてない。外出の気配が見られるときは見守りをしながら職員がそっと同行して話しかけながら安全に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜の避難訓練を実施している。緊急時対応のマニュアルを作成し、職員の役割りを決めている。近隣住民へは訪問して協力への働きかけをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量の確認をしている。また法人内の栄養士による指導を受けている。個々の状態を職員間で共有し、食事や水分補給の工夫もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や音楽などが用意されている。広くて明るい共用空間は、清潔で生活感があり、入居者は自由な雰囲気落ち着いて過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・位牌・タンスなどの持込によりそれぞれ落ち着いた環境が作られている。家族の写真などはほとんどの部屋に飾ってある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。